

大仙市花火産業構想 第Ⅱ期 アクションプラン

取組状況について

花火産業構想推進
プロジェクト会議
令和2年8月



目次

施策1	花火の文化的価値を高め、継承し、広く示す拠点づくり	
1-1	花火伝統文化継承事業	3
1-2	「花火のまち」中心市街地環境整備事業	4
1-3	花火イベント等情報発信事業	5

施策2	花火を支える人材育成・研究開発の場の創出	
2-1	花火師育成・確保支援事業	6
2-2	「花火のしごと」魅力発信事業	7
2-3	「メイドイン大仙」花火原料開発事業	8
2-4	花火学習プログラム展開事業	9

施策3	日本屈指の花火製造・打上技術を基盤とする 新たな花火生産拠点づくり	
3-1	高品質汎用花火玉製造販売事業	10
3-2	県内産花火用マツ炭販売普及事業	11
3-3	無線点火システムによる花火演出高度化事業	12
3-4	花火イベント企画運営サポート事業	13
3-5	花火製造工程の自動化・省力化	14

施策4	花火の文化的価値を高め、継承し、広く示す拠点づくり	
4-1	国際花火観光都市交流推進事業	15
4-2	国際花火競技大会開催事業	16
4-3	四季の「大曲の花火」開催・販売促進事業	17
4-4	“あなただけの花火”打上事業	18
4-5	花火大会におけるイベント民泊の推進	19
4-6	お土産商品ブランド「せんのぜん」展開事業	20
4-7	「大曲の花・美（はな・び）」ダリア販売普及事業	21
4-8	「花火のまちのまるごとスタンプラリー」開催事業	22
4-9	地域の花火大会等応援事業	23

1-1 花火伝統文化継承事業

花火に関する資料の収集保存を行うとともに、花火の文化的価値を高め、継承し、広く示す施策の推進を図る。

■ 資料収集・整理・資料のデジタル化・収集資料の展示の一連の流れ

① 資料収集・システム登録



② 資料のデジタル化



③ 保存・整理



④ (収集資料の一部) 展示



■ 花火伝統文化継承資料館開館以降の資料の収集及びデジタル化実績

No.	項目	H30年度末	R1年度末
1	花火資料収集点数 (累計)	15,099点	16,069点
2	花火資料デジタル化件数 (累計)	6,198件	7,407件
3	収集点数に対するデジタル化件数の割合	41.0%	46.1%

■ 大会提供花火映像ライブラリー

花火映像アーカイブの一環として撮影した大会提供花火の映像を公開。常時視聴可能。



■ 花火伝統文化継承資料館の来館者数とその推移 (人)



花火資料収集と整備、花火映像アーカイブ、花火資料企画展示を通じて花火の文化的価値を高め、広く発信していく

1-2 「花火のまち」中心市街地環境整備事業

花火をモチーフとしたサインの整備、「はなび・アム」周辺での物販スペース等の設置により「花火のまち」を印象づけ、賑わいを創出する

■ 中心市街地の案内サイン・誘導サイン整備

案内サイン 地区内3か所



誘導サイン 地区内14か所



はなび・アム、「大曲の花火」公園、JR大曲駅等を結ぶ動線上に案内サイン及び誘導サインを計17か所整備。

中心市街地の観光資源を結びつけ、
来訪者のまちなか歩き・滞留を促進する

■ 「はなび・アム」隣地の利活用



(株) はなびタウン・リノベーションが取得した「はなび・アム」隣地を駐車場として活用。第93回全国花火競技大会開催時には予約駐車場として運営した。



(一社) 大仙市観光物産協会が運営主体となり、「はなび・アム」隣地にトレーラーハウスを使用した花火グッズとおみやげ販売・観光PRブースを設置。

「はなび・アム」隣地等を整備・利活用し、
中心市街地の賑わい創出につなげていく

1-3

花火イベント等情報発信事業

地方創生推進交付金活用事業

インターネットやコミュニティFMを活用し、「大曲の花火」を中心とした花火イベント等の情報を国内・海外へ向けて発信する

■「FMはなび」花火情報番組放送



花火大会や花火鑑賞方法に関する情報番組「花火の星」を放送
 月曜26:00～26:30、木曜21:00～22:00（月曜は全国ネット放送）
 （R2は花火支援プロジェクトやサプライズ花火を紹介する特別番組も放送）



四季の「大曲の花火」・神岡南外花火大会では生放送特別番組を制作

花火に関する情報を広く発信し、
 大仙市への誘客と花火文化への理解深耕を図る

■「大曲の花火」関連ホームページについて



SNSと連動した情報発信により関連HPのアクセス数は約2倍となった。
 （四季の「大曲の花火」開催1週間前から当日までのアクセス集計）

No.	項目	H30	R1
1	大曲商工会議所（オフィシャルサイト）	184,248 回	403,916 回
2	（一社）大仙市観光物産協会	41,069 回	35,794 回
3	大仙市	19,938 回	23,192 回
	計	245,255 回	462,902 回

引き続きSNSと連動しながら積極的に情報発信をしていくほか、
 ホームページ一元化については、課題洗い出し等を行っていく

2-1

花火師育成・確保支援事業

地方創生推進交付金活用事業

火薬類製造保安責任者等の資格取得支援や、市内高校向け特別講座、花火師向けスキルアップ講座を実施する。

■ 花火師向け資格取得支援講座



年度	開催実績
H28	開催期間：8月29日～9月2日 受講者：14名（合格者10名） 火薬類保安責任者（製造・丙種）
H29	開催期間：8月28日～9月1日 受講者：7名（合格者5名） 火薬類保安責任者（取扱・乙種）
H30	講師・受講者の日程都合により 未開催
R 1	試験日が第93回全国花火競技大会の 翌日であり、 受験困難であったため未開催

■ 市内高校向け特別講座



年度	開催実績
H28	期間／H28年9月13日～15日 受講者：144名 （大農、大工、西仙北、六郷）
H29	期間／H29年9月12日～13日 受講者：91名 （大農、大工、六郷）
H30	期間／H30年9月11日～12日 受講者：93名 （大農、大工、六郷）
R 1	期間／R1年9月12日～13日 受講者：86名 （大農、大工、六郷）

■ 花火師向けスキルアップ講座



年度	開催実績
H28	開催日：平成29年3月14日 受講者：42名 「火薬の燃焼性能」
H29	開催日：平成30年3月20日 受講者：82名 「火薬類の着火性」
H30	開催日：平成31年3月27日 受講者：89名 「火薬類の仕組みと危険性」
R 1	開催予定日：令和2年3月26日 新型コロナウイルス感染拡大により中止

花火師の資格取得・スキルアップに加え、花火の振興を支える人材育成を行っていく

2-2 「花火のしごと」魅力発信事業

花火に携わる仕事の魅力を無料職業紹介所、首都圏移住相談会等で発信し、若年層の地元定着、移住・定住、Aターンの促進を図る

■ 大仙市移住促進無料職業紹介所の運営

市として無料職業紹介所を運営し、移住コーディネーターが仕事に関する悩みの解決をサポート

■ 首都圏の移住相談会等での情報発信

秋田県や（公社）秋田県ふるさと定住機構が主催する首都圏移住相談会での情報発信

■ 職業体験やインターンシップの検討・実施



市内高校生等の職場見学の受入調整のほか、職場体験やインターンシップについて検討・実施

花火に携わる仕事の魅力を発信し、
花火会社の雇用確保と
大仙市への移住・定住を促進する

2-3

「メイドイン大仙」花火原料開発事業

地方創生推進交付金活用事業

秋田県立大学と連携し、花火に最適なマツ炭の製造条件・粉碎条件のほか、市内の農林生産物の花火製造への活用を研究する

■ 市内農林資源の花火原料への活用を検討

- ✓ 国内の花火玉は完成品だけではなく原料となる「炭」も大部分を輸入に依存
- ✓ 秋田県立大学と連携し、花火の原材料となりうる農林資源を調査
その結果、アカマツの活用が有望と判明
- ✓ 大仙市にて花火用マツ炭を生産・製品化し、全国の花火会社へ販売する計画を策定



H27~H28



秋田県立大学 木材高度加工研究所

H29

■ 炭焼き窯の導入による炭の生産開始

- ✓ 市が鉄製の炭焼き窯 4 機を購入し、
(一社) 大仙市観光物産協会に貸与
- ✓ (一社) 大仙市観光物産協会が事業主体となり、臨時職員2名を雇用し、旧西仙北スキー場でマツ炭の生産を開始



H30

- (株) 花火創造企業が粉碎施設を整備
- ✓ (株) 花火創造企業が自社事務所の隣接地にマツ炭粉碎施設を整備し、粉碎機等の機械設備を導入
- ✓ 炭焼きから粉碎までの一連の設備が整い、市内で花火用マツ炭が生産可能になる



R1

- マツ炭販売普及事業の本格スタート
- ✓ 製品の品質確認体制を整えながら、花火用マツ炭の量産を開始

安定した品質確保と生産効率化による
収量増加に向けた取組を継続していく

2-4

花火学習プログラム展開事業

「花火鑑賞士」資格制度の普及や花火鑑賞をテーマとしたセミナー開催により、花火を学び親しむ機会を提供し、花火ファン層の拡大を図る

■ 第17回花火鑑賞士認定試験



令和元年10月13日
ゲストハウスフォーシーズン
参加者43名

令和元年10月20日
大曲エンパイヤホテル
参加者30名

※台風19号の影響により
2回開催

■ 花火鑑賞士フォローアップセミナー（第15回花火鑑賞士のつどい）



令和元年5月11日
グランドパレス川端
参加者100名

■ 四季の「大曲の花火」に合わせたセミナーの開催



令和元年8月31日
花火伝統文化継承資料館
大曲技術専門校
のびのびらんど
参加者計1,135名

令和元年10月19日
花火伝統文化継承資料館
参加者23名

■ 講師派遣による出張セミナーの開催（「まるごと秋田だいせんin新宿」）



令和元年10月3日・4日
東京都新宿区
（新宿駅西口広場
イベントコーナー）
参加者計100名

継続して各種セミナーを開催することで花火を学び親しむ機会を提供し、花火ファン層の拡大を図る

3-1 高品質汎用花火玉製造販売事業

国内屈指の花火製造技術を活用し、輸入が大きな割合を占める5号以下の小型花火玉を製造し国内花火会社へ販売する

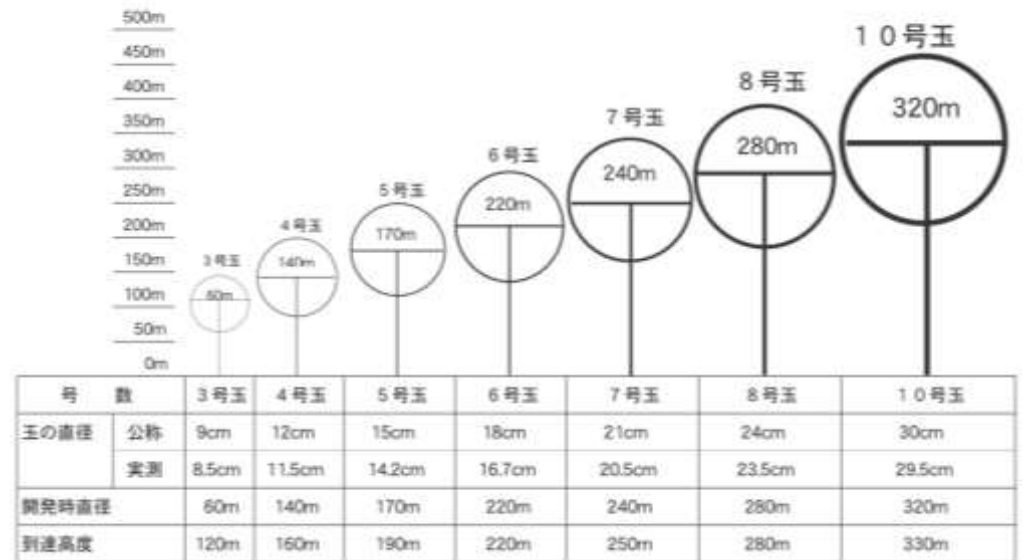
■ (株) 花火創造企業が整備した煙火製造工場



■ (株) 花火創造企業の花火玉出荷数の実績

項目	H29	H30	R1
花火玉出荷数	15,851 発	23,832 発	30,389 発

■ 輸入が大きな割合を占める5号以下の小型花火玉を製造 (図は「玉の直径」「開発時直径」「到達高度」)



一定期間の休業を余儀なくされているが、試射した花火を動画撮影し自社WEBサイトにてプロモーションをするなど、実施可能な営業活動を行っていく。

3-2

県内産花火用マツ炭販売普及事業

地方創生推進交付金活用事業

高品質で安定した県内産花火用マツ炭の製造・粉砕・販売を行い、花火玉の品質向上や山林所得の向上等を図る

■ 県内産花火用マツ炭のサプライチェーンについて



〔原材料〕
マツ生木

森林組合等



〔加工① 炭焼き〕
マツ炭（粉砕前）

（一社）大仙市観光物産協会



〔加工② 粉砕〕
マツ炭（粉砕後）

（株）花火創造企業



〔消費〕
花火原料

県内外花火会社等

■ 観光物産協会・花火創造企業の花火用マツ炭の生産及び販売実績

No.	項目	H29	H30	R1
1	〔観光物産協会〕生産量	2,301kg	7,012kg	6,238kg
2	〔観光物産協会〕→〔創造企業〕販売量	0kg	7,000kg	6,000kg
3	〔花火創造企業〕粉砕量	0kg	0kg	4,275kg
4	〔花火創造企業〕→〔花火会社等〕販売量	0kg	0kg	1,590kg



花火用マツ炭の販路拡大と生産コストの低減を図り、事業自走化に向けた取組を進めていく

※R1〔花火創造企業〕→〔花火会社等〕販売量については、サンプル提供分1,560kgを含む数値

3-3

国産無線点火システム販売普及事業

県内企業との連携により安全性・機能性・操作性に優れる国産の無線点火システムを開発・販売し、国内花火の演出力向上を図る

■ 無線点火システム「PYROLIGHTER（パイロライター）」試作機4基の製作を完了



- ✓ 無線点火が可能となることにより、花火会場の地形や観客との距離をフルに活かした細かい演出が可能
- ✓ 有線での使用もできるハイブリットシステムとして提供
- ✓ 国産点火システムであるため、窓口一元化及び日本語での対応が可能であり、アフターフォローを充実



■ 県内企業の連携体により事業を推進

花火演出・サービス提供	花火製造・演出設計・打上
(株) 花火創造企業 ※コア企業	(株) 小松煙火工業
演出プログラム開発	通信機器部分開発
(株) オクトライズ ※秋田市	(株) シンタ ※秋田市
システム開発支援	事業活動円滑進展支援
秋田県産業技術センター	大曲商工会議所

■ イベント総合EXPOへブース出展



■ P R チラシを作成し煙火業者への営業を開始

製品版の販売開始予定を令和4年度とし、自社開発により現行試作品の改良と各種試験を行う

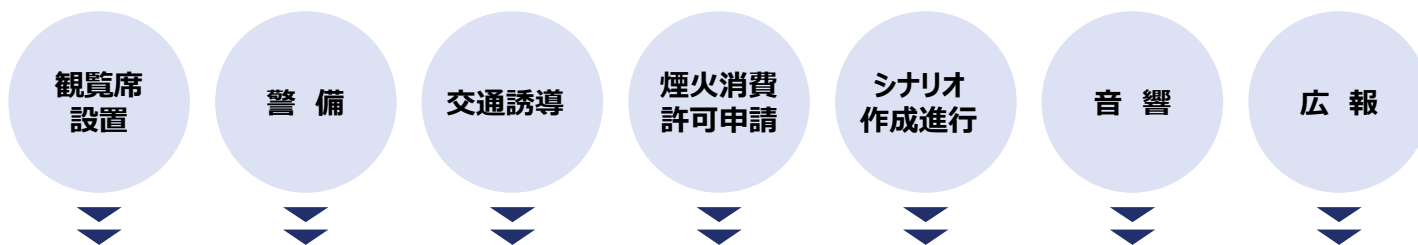
令和2年2月のイベント総合EXPO出展時に、全国の煙火業者21社と商談を行った。

3-4 花火イベント企画運営サポート事業

「大曲の花火」運営ノウハウを活用し、全国の主催者を対象として花火イベントをワンストップで請け負うサービスを提供する

■ 花火イベント企画運営サポート事業（花火トータルプロデュースサービス）について

従来の花火イベントで様々な会社に関わっていた業務をすべて、ワンストップで請け負うサービスを提供する。



全ての業務を株式会社花火創造企業が請け負う
業務内容は分野別に体系化し、地元企業等と連携し業務にあたる

■ 大曲の花火－秋の章－のフィナーレ花火「竹取物語」でシナリオ作成を含む花火演出企画を担当



竹をイメージした花火



月に向かって矢を射つシーン

営業体系及びメニューの再検討をおこない、新しい生活様式にあわせた提案内容を構築していく

■ P Rチラシを作成しイベント関連業者へ営業

令和2年2月のイベント総合EXPO出展時に、イベント関連会社数社と商談を行った。

3-5 花火製造工程の自動化・省力化

手作業が大部分を占める花火製造工程について、公設研究機関等の助言を受けながら自動化・省力化に取り組み、収益率を向上させる

■ 花火製造における主要4工程について

①配合作業



数種類の粉状の原材料をそれぞれ計量し混合する。現在、配合作業の機械化を優先的に検討中。

②造粒作業



配合によって作られた色火剤等を用いて、花火の一つひとつの光を発する固形物（星）を成形する。

③玉込め作業



玉皮の内側に沿うように星を並べる。その上に火薬が擦れ合うことを防ぐ和紙を置き、割火薬を入れる。

④玉貼り作業



玉込めした花火玉の表面に紙を貼る。玉貼り作業については既に機械化が行われ、導入されている。

現在優先的に進めている「配合作業」をはじめ、「造粒作業」「玉込め作業」の機械化の実現に向け、現状の分析や課題の抽出を行っていく

4-1 国際花火観光都市交流推進事業

花火イベントで観光振興に取り組む世界の都市との交流により、「大曲の花火」を世界に発信し、観光消費と交流人口の拡大を図る

■ 国際花火シンポジウムについて

- ✓ 国際花火シンポジウム協会主催。
各国の花火関係者が一堂に会する国際会議。
- ✓ 平成29年に大仙市大会を誘致。
日本を含む38の国と地域から449名が参加。
大曲の花火-春の章-を同時開催。

【テクニカルプログラム】
(プレゼンテーション (論文発表) ・
モデレートセッション (グループ討論)
花火に関する技術や安全性、芸術性につ
いての研究発表

【トレードショウ】
花火関係会社による
新商品の発表、商談

【観光イベント】
現地実行委員会主催の
観光ツアー、花火打ち上
げ等



テクニカルプログラム (プレゼンテーション)



トレードショウ



観光イベント

■ 国際花火シンポジウムの開催歴

開催回	年	開催地	開催回	年	開催地
第1回	1992	モントリオール (カナダ)	第10回	2007	モントリオール (カナダ)
第2回	1994	バンクーバー (カナダ)	第11回	2009	プエルトバヤルタ (メキシコ)
第3回	1996	ウォルトディズニーワールド (アメリカ)	第12回	2010	ポルトノヴァ (ポルトガル)
第4回	1998	ハリファクス (カナダ)	第13回	2012	マルタ (マルタ)
第5回	2000	ナポリ (イタリア)	第14回	2013	長沙 (中国)
第6回	2001	ウォルトディズニーワールド (アメリカ)	第15回	2015	ポルドー (フランス)
第7回	2003	バレンシア (スペイン)	第16回	2017	大仙市 (日本)
第8回	2005	滋賀県 (日本)	第17回	2019	プエルトバヤルタ (メキシコ)
第9回	2006	ベルリン (ドイツ)	第18回	2021	マルタ (マルタ) ※2020年より延期

新型コロナウイルスを巡る今後の状況を見極め、交流事業の進め方を検討していく

4-2

国際花火競技大会開催事業

海外で活躍する花火業者等が出場する競技大会を開催し、国内花火業者のレベルアップとインバウンド誘客を図る

■ マルタ国際花火大会2020の延期について

- ✓ 2020年4月18日・24日・26日・30日の4日開催の日程で予定されていた「マルタ国際花火大会2020」を視察する計画としていたが、新型コロナウイルス感染拡大の影響により大会自体が延期となっている状況
- ✓ 大会の主催者はマルタ観光局、開催地はマルタ島及びゴゾ島



出典：マルタ国際花火大会公式ホームページより翻訳 (<https://www.maltafireworksfestival.com/>)

新型コロナウイルス感染症を巡る今後の状況を見極め、改めて開催時期について検討していく

■ マルタ大会の開催概要について

- ✓ 競技のテーマは「ミュージカル・スペクタキュラー（ミュージカル大劇場）」
- ✓ 参加募集数は6社
- ✓ 花火と音楽を組み合わせ、14分以上の花火ショーを打ち上げ
- ✓ 打ち上げ幅は100メートル
- ✓ 3名以上の審査員による国際的な審査委員会によって審査
- ✓ 審査基準は、花火玉の品質、色彩、花火の視覚効果・音、音楽との同調、芸術表現、独創性、選曲、打上現場検査など

■ 第18回国際花火シンポジウムについて



国際花火シンポジウム協会ホームページ (<https://isfireworks.com/>) にて、2020年10月開催予定であったマルタ大会の2021年への延期が発表された

4-3 四季の「大曲の花火」開催・販売促進事業

四季に合わせて「大曲の花火」を開催することで、ブランド力を最大限に活かし通年での誘客を図る

■ 令和元年度における四季の「大曲の花火」開催状況について

大曲の花火－春の章－



- ✓ 令和元年5月11日(土)開催
- ✓ フランスのルジェリ社が花火打上「パリジャン・ファンタジー」
- ✓ 観覧者数：33,000人

第93回全国花火競技大会



- ✓ 令和元年8月31日(土)開催
- ✓ 大会テーマ「平生凛々 より安全に より芸術的に」
- ✓ 観覧者数：750,000人

大曲の花火－秋の章－



- ✓ 令和元年10月19日(土)開催
- ※台風19号の影響により当初予定から1週間延期して開催
- ✓ 観覧者数：19,000人

大曲の花火－冬の章－



- ✓ 令和2年3月21日(土)開催
- 予定としていたが、新型コロナウイルス感染拡大の影響により開催見送りとなった。

四季の「大曲の花火」開催に向けた準備を進めながら、サプライズ花火やプライベート花火の打上を実施していく

4-4

“あなただけの花火”打上事業

プライベート花火等を内容とした通年型の観光商品を開発し、誘客と滞在時間の増加を図る

- **【R1実績】** 大曲商工会議所・JR秋田支社・JTB秋田支店の共同により商品造成を実現
(販売期間：令和2年3月15日～29日)



- **【R1実績】** SNSと連動した「プライベート花火」体験プレゼントキャンペーンの実施（参加総数：423人）



みーくん @miya_hanabi 1月15日 | 花火玉作体験とが魅力的な花火屋ができては行かない!!

5月のパンダ* @yoco081124 2019年 | プライベート花火ですと*!!

ユウタっち @nyk_golf 1月20日 | 当たったら最高!!

たかたか @takataka_nakano 1月16日 | プライベート花火、打ち上げたい!!

- ツアー行程一例

①「はなび・アム」見学



②花火工場見学



③模擬花火玉作り体験



④プライベート花火打上



令和2年度も引き続き商品造成を促進し、「プライベート花火」の周知を図るとともに知名度向上を目指す

4-5 花火大会におけるイベント民泊の推進

「大曲の花火」において民泊活用を拡大することで、宿泊施設の不足に対応し、観光客数と観光消費額の増加につなげる

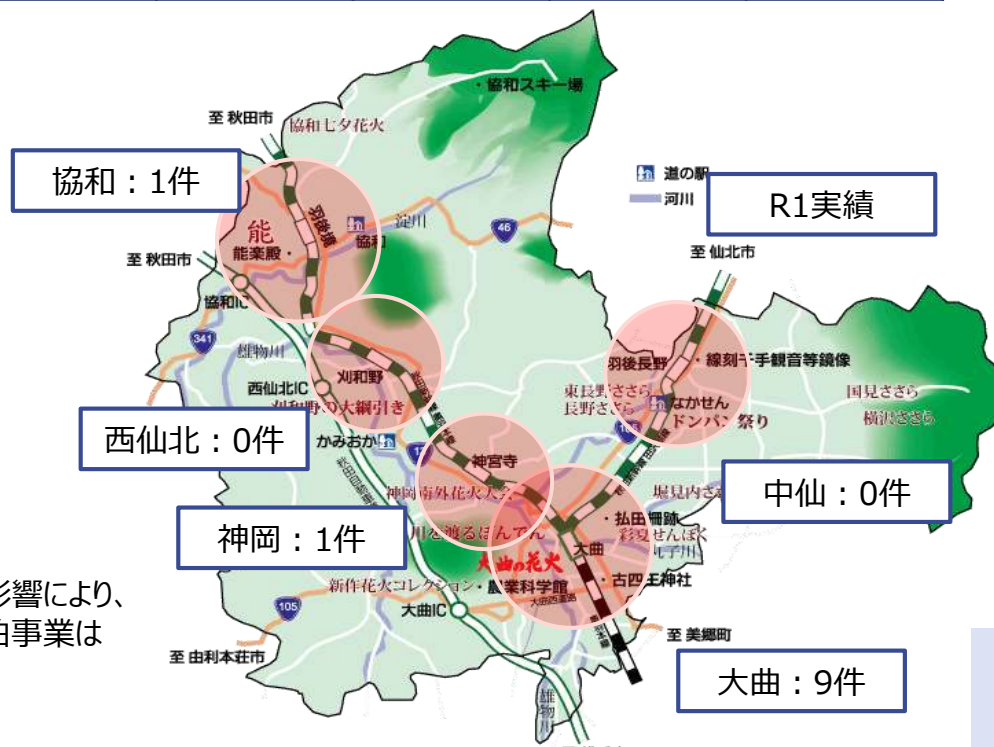
■ イベント民泊（イベントホームステイ）の事業実績について

年度	住宅提供者		宿泊応募者		宿泊者	
	申込件数	提供件数	応募件数	予定人数	宿泊件数	宿泊人数
H30	12軒	10軒	17件	56人	10件	42人
R1	14軒	11軒	31件	108人	11件	52人

■ 令和元年度の課題について

- ✓ 宿泊条件を満たせなかったため辞退となった応募者もいることから、改めて募集条件の見直しが必要。
- ✓ 自宅提供者が大曲地域に多いことから、大曲地域以外への効果的な周知方法に課題が残る。

※新型コロナウイルス感染拡大の影響により、令和2年度においてはイベント民泊事業は実施しない。



■ 令和2年度以降の改善策について

自宅提供者の受入要件緩和

- ① 住宅設備の要件緩和
- ② 駐車場要件を廃止
- ③ 宿泊料金自由化
- ④ 住宅1軒あたり1団体のみでの受入制限を緩和、条件付きで複数団体の受け入れを可能に

JR駅周辺地域へのPR強化

- ① パーク・アンド・ライド形式でJRを活用した事例をPR
- ② JR駅の周辺を重点地区とし、チラシを全戸配布するなどPRを強化 ※左図の赤円部分
- ③ 各地域で説明会を開催

感染症対策を含め、令和3年度に向けた事業改善について検討していく

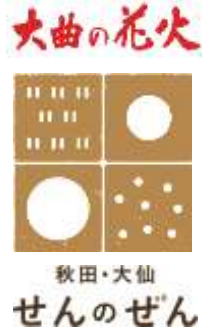
4-6

お土産商品ブランド「せんのぜん」展開事業

地方創生推進交付金活用事業

大仙市お土産商品ブランド「せんのぜん」の参画事業者拡大とラインアップ充実を図り、花火イベントでの消費拡大につなげる

■ 「秋田・大仙 せんのぜん」売上実績について



No.	商品名	価格	H30販売額	R1販売額
1	プレミアムスティック	270円	327,240円	194,130円
2	特選あきたこまち	648円	143,208円	71,928円
3	さけジャーキー	600円	337,200円	99,600円
4	三杯もち（赤あん）	140円	334,180円	316,960円
5	三杯もち（えごま）	150円	275,400円	262,500円
6	秀よし純米吟醸酒	710円	409,670円	260,429円
7	アカシアはちみつセット	2,000円	132,000円	118,000円
8	アカシアはちみつ	1,200円	139,200円	115,200円
9	みずの漬物	540円	437,400円	292,680円
販売額計			2,535,498円	1,731,427円

■ ブランド協議会立ち上げによる令和2年度の実施体制について

せんのぜんブランド協議会

令和2年3月24日設立 会長：辻 卓也 氏

大仙市観光物産協会

参加事業者

- 道の駅等からの商品受発注窓口
- 売上管理
- 営業業務
- 新商品開発、既存商品磨き上げ
- 新規参入事業者へ声かけ
- 販売促進の企画

大仙市

事業委託業者

・ 事業実施支援

■ 新商品「せんのかゆ」の開発について

- ✓ 「米どころ」、「無上の食膳」というキーワードに合致する商品として「せんのぜん」おかゆシリーズ開発に着手。
- ✓ 健康面からも注目されている上、全国的にも「おかゆ」をメインとするブランドはなく、ヒット商品となることが期待される。
- ✓ 全商品共通の「レトルトのおかゆ（市内産あきたこまち）」と市内事業者がそれぞれ開発する「トッピング」をセットで販売。



パッケージイメージ

新商品「せんのかゆ」完成・販売に向け、協議会が主体となり取り組む

4-7 「大曲の花・美（はな・び）」ダリア販売普及事業

地方創生推進交付金活用事業

花火を連想させる花卉として開発した「花火ダリア」の認知度とブランド力の向上を図り、関東圏や関西圏、地元での普及・販売に努める

- ジャパンフラワーセレクションで「大曲の花火ダリア 橙炎（とうえん）」がベスト・フラワー（優秀賞）を受賞

橙炎



ベスト・フラワー Best Flower

花紫音



紫ながれ



和火



※「橙炎」は、モーストジョイ特別賞、グッドパフォーマンス特別賞を同時受賞

※このほか「花紫音」「紫ながれ」がジャパンデザイン特別賞、「和火」がライフデザイン特別賞を受賞

- 「花火ダリア」販売実績

No.	項目	H29	H30	R1
1	生産者数（大仙市・仙北市・美郷町）	14人	22人	30人
2	生産総本数	7,020本	29,718本	48,998本
3	販売額	878千円	3,719千円	5,071千円

これまで開発した全10品種について一層の認知度・ブランド力の向上を図り販売促進につなげていく

- 東京・大田市場で選定投票会を開催（令和元年9月23日）



- はなび・アムで特別展示を実施（令和元年8月31日）



4-8

「花火のまちのまるとスタンプラリー」開催事業

市内各地域のイベントを周遊するスタンプラリーを開催し、通年での誘客を図る

■ 「ぐるっと大仙デジタル・スタンプラリー2019」について

- ✓ スマートフォン専用アプリ「COCOAR2」を使用し、大仙市内20か所のチェックポイントで画像をスキャンすると、アプリ上でデジタル・スタンプを取得できる。
- ✓ 希望するコースに必要なスタンプ数を集めて応募すると、抽選で景品をプレゼント。
- ✓ 参加目標人数300人に対して参加者数412の実績を得た。
- ✓ 高橋優主催の野外音楽フェス「秋田 CARAVAN MUSIC FES 2019」の際に参加者数が伸びたことから、イベント開催との相乗効果が高いことを確認。
- ✓ 賞品の応募要件を満たしているのが、応募をしない参加者が約半数存在するため、スタンプラリーの仕組みやプレゼントの内容についてより丁寧に周知する必要がある。



スタンプラリー実施方法を検証しながら、より多くの参加者を得られるようPRしていく

4-9

地域の花火大会等応援事業

毎月開催される特色ある花火大会の運営を支援し、交流人口の拡大を図る

■ 令和元年度における地域の花火大会等開催状況と支援額の実績について

No.	大会名称	開催日	観覧者数	支援額 (円)
1	余目さくら花火鑑賞会	平成31年 4月 11日	1,700人	498,960円
2	第14回檜岡さなぶり酒花火	令和元年 6月 6日	3,500人	498,960円
3	第38回協和七夕花火	令和元年 7月 6日	7,000人	2,000,000円
4	ふるさと西仙まつり	令和元年 8月 15日	5,000人	499,500円
5	まつり彩夏せんぼく2019	令和元年 8月 15日	5,000人	499,986円
6	第35回ドンパン祭り	令和元年 8月 16日	(中止)	110,019円
7	第40回神岡南外花火大会	令和元年 9月 14日	14,000人	2,000,000円
8	第13回全日本残月花火選手権大会	令和元年 11月 3日	160人	100,000円
9	太田の火まつり	令和2年 2月 1日	3,000人	499,400円
10	刈和野の大綱引き	令和2年 2月 10日	7,300人	1,397,990円
11	川を渡るぼんでん	令和2年 2月 11日	3,500人	399,850円



令和2年度は大会が中止となった場合、各大会主催者によるサプライズ花火打上を支援する